

美杉消防団紹介



津市美杉消防団長  
津市消防団副統括団長  
米倉 義房

私が消防団員を拝命して早や三十六年余、副団長七年、そして団長としての九年は、遠くで長い道のりですが、「奉仕の精神」で私なりに一生懸命努めています。

私が、ここまで務めることができたのは、家族の協力なくしてありえませんでした。

さて、津市美杉町は、南北に細長く県内のほぼ中央に位置しています。北は名張市と伊賀市に、南と東は松阪市に、西は奈良県宇陀郡に隣接しています。

旧美杉村は、昭和三十年の合併により七ヶ村で構成され、美杉村(消防団)として誕生しました。平成十八年一月には、さらに十市町村の合併により津市美杉消防団となりました。美杉町では道路が狭く、山林が町全土の八十パーセントを占めて

いるため、この地域性に対処できる車両として各分団に4WDの小型車両が配備されています。

消防団は、第一分団五部(竹原地区)・第二分団三部(八知地区)・第三分団四部(太郎生地区)・第四分団二部(伊勢地区)・第五分団三部(八幡地区)・第六分団三部(多気地区)・第七分団三部(下之川地区)と女性消防団で構成され、団員数は三一二名で日夜訓練に励み、地域防災活動のリーダーとして和衷協同・有事即応の体制を堅持し消防団活動を行っています。

当消防団も若年層人口の減少で団員確保が難しい現状ではありますが、あらゆる場で消防団の魅力、重要性についての啓発活動に取り組んでいます。

今後も使命達成のため、全団員が一致協力して、さらなる精進を重ねて、災害に強い地域づくりを目指していきます。



訓練風景

精進を重ねて、災害に強い地域づくりを目指していきます。

大地震に備えて

自主防災会が訓練

バケツリレーをする住民



ホースの取扱訓練実施中

五月七日(日)に河芸町上野の本城山青少年公園グラウンドにおいて、河芸町上野自主防災会(会長 別所千万男)が小雨の降る中、大地震に備えて、百人ほどの地域住民が参加して防災訓練が実施されました。

消火器による初期消火から始まって、消火栓の使い方、消防用ホースの延長・結合、筒先の要領、バケツリレーなどを実施し、また応急手当についても熱心に取り組んでいました。

訓練終了後、別所会長から「この訓練で学んだことを、地震や火事など、有事の際に発揮できるように、普段から十二分に

訓練を重ねて、備えを万全にして下さい。」と講評がありました。

河芸分署

救急救命士誕生

白山署・南分署

このほど、白山署の横山泰三(28)消防士長と南分署の奥山和司(31)消防士長が、救急救命士の国家試験に合格し、当消防本部の救急救命士は三十二名となりました。

横山士長は昨年九月から名古屋市救急救命士養成所へ、奥山士長は昨年十月から救急救命東京研修所へ、それぞれ今年の三月まで教養を受けた後、国家試験に合格したものです。今後は、市内の救急病院で百六十時間にわたり実習を行っていきます。



奥山士長



横山士長

